

2007年 9月11日

2008 年度社団法人日本青年会議所関東地区

茨城ブロック協議会 会長所信

第 37 代会長

若 林 純 也

ただあるべきを感じ あるべきを進む
己（個）を律し 1100 のたぎる魂から 確かな次代を切り拓く！
ACTION！IMPACT！1100 IBRAKI POWER！！

はじめに

時代は、「21 世紀」への新たな転換期とも言える重要な時代に突入しました。戦後焼け野原の何も無い状況から、私たちの先人たちは強い精神、思想によって他には類を見ない驚くべき著しい発展、復活を見事に成し遂げました。古くの昔から時代時代の状況下において私たちの先人たちは、いつもその瞬間を見つめ苦慮を重ねこの日本を世界において注目をされる代表たる存在、位置へと導きました。今私たちがこうして豊かに平和に暮らしていただけるのは、そうした先人たちの強い信念に基づいた行動の結果であります。私たちはこの「日本」(くに)「時代」(いま)を築きあげてきてくれた先人たちに対し、深い感謝をし、そして今その重要な役割に置かれているのは他でもない私たちであるという事を、まずしっかりと認識しなくてはなりません。

平均年齢が約 35 歳という青年会議所は、40 歳（昭和 43 年生まれ）から約 30 歳（昭和 53 年生まれ）というメンバーで多く構成されています。いつの時代からでしょう。私たちの幼少の頃から見ても社会の様相やその情勢は目まぐるしく変わり、テレビ、新聞等で連日報道される問題等も以前であればこんなにまでも耳に入ってこなかった様にも思います。その昔は子供であった私たちの今のその目から見ても「どうも何かが変わった」「何か違った」と感じます。人も含めた街の風景、世の常識、今非常に多くの問題を抱える社会システム上の問題等にあっても、昔からその様相はあったはずで、バブルと言われた時代には多くの方が活気付き表面的な豊かさの中にそれらの問題も埋もれやすい状況にはあったのかもしれませんが、何か狂い厳しい社会となった今、色々な問題が浮き彫りになり多くの問題が強くクローズアップされるようになりました。しかし本当に危機感を感じ、誰もが確かな行動を起こしているかといえ、まだまだそうではないのかもしれませんが。

今の社会は大海原で、そこに起こる出来事は右に左に大きくうねる波だとするならば、良くない方向へ進もうとするまたは進んでいるその「うねり」を急に止めたり向きを変えすることはできません。誰かが気付く危惧した時、たった一滴（ひとしずく）から向きを変えはじめ、それと同調するように徐々に「うねり」が向きを変え、いずれは正しい方向へと向きを変え力強く進み始めるのです。

強く意識しよう！いつの時代も次代を切り拓いてきたのは青年であり、先見の目を持ち次代を創る役目を私たちは担っています。そして JC には POWER があります。組織としてこれほどまでに強い信念、結束をもち、会員一人ひとりの力がこんなにも熱くたぎる団体は他にはないのではないのでしょうか。どんな苦境、困難な道であろうとも、行動の原動力となる「熱い志」を持ち「公」の心を携え Jaycee としての力をいかに発揮し、私たちから確かな次代を切り拓きましょう！「英知」「勇氣」「情熱」をもって大事な現代（いま）を力強く歩むのです。

私たちの茨城

私たちの茨城は、日本の首都東京からもごく近く県の面積としては約 6100 平方キロメートル（全国 24 番目）、関東平野にかかり平坦な住みやすい土地が多く、可住地域の面積としては約 4000 平方キロメートルとこれは全国でも 4 番目の広さとなります。44 の市町村からなり人口も約 300 万人と全国でも上位に位置します。

県北には県内最高峰となる八溝山地（標高 1022m）からなる高い山々が連なり、県の中央には筑波山、加波山などがあります。豊かな水源として全国 2 番目の広さをもつ霞ヶ浦、北浦を中心とする水郷地帯、都市型公園としてセントラルパークに次ぐ世界第 2 位の広さをもち偕楽園大規模公園に位置する水戸の千波湖、その他にも涸沼、牛久沼等多くの湖沼を有しています。河川においても全国で長さが 2 番目、流域面積としては 1 位となる利根川を千葉県との県境にもち、鬼怒川、那珂川、久慈川、小貝川など多くの河川もあります。

東には太平洋を望み、総延長 190 km にも及ぶ海岸線をもち、沿岸漁業の拠点として平潟、大津、久慈、磯崎、平磯、那珂湊、波崎など多くの漁港があり、その他にも日本初の商業用発電所として開業した東海原子力発電所をもち、世界のつくばとして知られる筑波研究学園都市、秋葉原まで約 45 分で結ぶつくばエクスプレスも開通し、県を南北縦断する常磐自動車道、水郷潮来より成田まで 20 分の東関東自動車道、首都の中心部から 50 km 程度の所に計画され、横浜厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津など中核都市を結ぶ圏央道（首都圏連絡中央自動車道）、関越自動車道、東北自動車道、常磐自動車道と連結し、群馬、栃木、茨城 3 県の主要都市を結ぶ常陸那珂港から群馬県高崎市へと延びる北関東自動車道、北関東の海の玄関口常陸那珂港、鹿島臨海工業地帯掘込式人口港湾として世界最大規模を誇る鹿島港、その他にも日立港、大洗港、北関東の空の玄関 民間共用化の空港「茨城空港」として開港を予定する小美玉市の航空自衛隊百里飛行場と、大きな可能性をもつ

陸・海・空のネットワーク。鹿島アントラーズに代表しスポーツも盛んで、東京からもより近い環境でありながら自然豊かな茨城。テレビや映画のロケなども多く行われ、農・海産物と食も非常に豊かです。

こうして私たちの住む茨城を見てみると、本当に多くの特色があり東京にごくごく近い田舎な茨城。私たちの茨城はこんなにも可能性が溢れ、住みやすく「茨城に生まれて良かった」「住んでいて良かった」と、そう思える街もなかなかないのではないのでしょうか。私たちはそんな茨城県人である事に嬉しさと楽しさを感じ、そんな街をベースに地域の未来を創造していけるという事もまた、とても楽しみな事であります。青年として次代の担い手としてこの茨城を夢膨らませ楽しみながら創造していきましょう！

協議会の役割

茨城ブロック協議会は県内 24 の会員会議所約 1100 名のメンバーから構成され、日本の青年会議所は全国 10 地区協議会、47 ブロック協議会、そして全国 714 の会員会議所約 40,000 名というメンバーで組織されています。各地青年会議所として地域のまちづくりや諸問題へ取組む LOM (Local Organization Member) と、またその LOM と協働して日本の問題、社会の問題に取組み、国際青年会議所 (Junior Chamber International) においては日本の青年会議所を代表して参画し、真の世界平和の実現へ向けた運動を展開する NOM (National Organization Member) が強く繋がり共鳴し共に行動することによって、夢、活力ある地域の創造、理想国家の実現、真の世界平和へと導く事が出来ると確信しています。日本青年会議所から、また関東地区協議会を通じて行う国づくり、地域の創造、社会変革運動を LOM の皆さまと手を携え推し進め、また、LOM の運動に連携させていただくことで、より効果的に力を発揮出来るのであれば日本青年会議所をはじめとする地区、ブロック協議会のスケールメリット、そのパワーを活かし事業連携、運営連携、協働の運動とし、より社会変革運動を力強く加速させます。日本の青年会議所会員の約 9 割が企業や団体等の取締役や管理職等の何らかの影響をもつ役目を務めています。そういった私たち青年会議所から強き行動力の原動力となる高い志を胸に運動展開をしていけば、必ずやこの社会を私たちが望む「明るい豊かな社会の実現」へと導く事が出来るはずだと確信しています。

Jaycee として

いつの時代にも問題はありました。ここ数年来においても多くの人が現状に危機感を抱き、今の社会が向かっている将来、方向性を危惧し声を上げ、取組みも様々に行われてきました。しかし状況はなかなか抜け出られず、大きな変化は認められず、むしろどんどん深刻化している様な気さえします。我々も含めた市民、国民は厳しい今を生き抜く事に必死になり無関心であったり、余裕が失われている為結果それと同様となる。また声をあげたところで、行動を起こしたところで今更この社会の渦は変えられない・・・と思う気持ちもあるのかもしれませんが。確かに厳しい現実が続いているかもしれませんが。しかし決して諦めたり投げることは出来ません。行動に移せない移さない、歩みを緩めたり止める事も、それは私たちが目指そうと唱えている事に対し相反する行動という事になります。今こういう状況にあるのは誰のせいでもなく、誰のせいにする訳でもなく、私たちに起因されている事を認識なくてはなりません。先にも述べたように私たちに次代を担う絶対的な責任があります。「個人の修練」「社会への奉仕」「全ての友情」という JC の三信条を胸に、苦難な道であれ、険しい道であれ「英知」「勇氣」「情熱」を胸に強い行動をおこしていかなければなりません。それが私たち青年の絶対的な使命なのです。

未来を憂う

今私たちを取り巻く環境は、環境問題はじめ年金問題、行政不信、国民の政治離れ無関心、公職また立場ある人物による不祥事、崩壊した企業倫理、格差社会、膨大に膨れ上がった赤字国債、少子高齢化等、その他細かくあげればキリがないほどの多くの問題をいまだ抱え、またそれらは一つひとつが複雑に絡み合い芋づる式に繋がり何から解決すれば、取組めばという一朝一夕に解決出来る問題ではなくなっています。しかし考えてみればどんな問題を辿っていてもそこでは必ず人に行き着きます。ではいったい何故そういった諸問題が起こりうるのでしょうか。多くの問題は己の欲や個人の利権獲得に走った結果であり、いわゆる利己主義によるものであったり、無関心であったり、先を見据えなかった結果であります。私たちは、そんな今の社会の中で多くの問題に立ち向かい解決の道を辿っていかなければなりません。

偉大なる先人たちにより過去が築かれ今の豊かな社会を私たちは授かり、託されました。将来を見据え、現代（いま）を創るのは私たちの役目であり、未来から私たちが託されているのです。

現代、未来は子孫たちからの預りもの、子供たちに恥ずかしくない次代として引き継いでいくのは私たちの絶対的な使命なのです。

危機的状況

私たちは普段から普通に家に帰り、電気・エアコンを付け、お風呂に入り、車で出かけと、ごくごく当たり前の生活をしています。人口の多さという要因もあるにせよ地球の環境破壊を進める国として私たち日本は世界の中でも上位に位置しています。私たちが普段何気なく生活をしているだけで環境破壊を著しく加速させているのです。豊かになった日本、戦後の苦しさから抜け出した日本、自分たちの力だけで這い上がった訳ではありません。様々な人に支えられ導かれ生かされてきました。今こそ私たちはこの地球の問題を深刻に受け止め率先して取組んでいかなければなりません。地域、国、世界は全ての人（個）の集まりによってつくられています。人（個）が本当にその危機感を感じ出来る事を必ず実践していければ、必ずこの問題には歯止めはかけられます。私たちが出来る事は沢山あります。物を大切に作る、ゴミをなるべく出さない、電気を無駄にしない、水を大切にする、例えばたった1枚のコンビニの袋をもらわない、ただそれだけでもいいのです。個人が出来る事は限られています。でもそれこそが実は大事なのです。今すぐ実践出来る事です。強く意識しましょう。私たち一人ひとりの強い行動に地球の未来がかかっています。たった今から行動に移す事が大事です。強い意思をもって。私たちの子孫の為に豊かな未来、地球を残しましょう。

こころ

公職または権利ある人による多くの不祥事、偽装問題、粉飾決算等の企業倫理の崩壊、犯罪の低年齢化や凶悪化、今や様々なセキュリティに頼り子供もおちおち一人で歩かせられない、自然な人との係わり合いも持たせられない様な世の中、国になってしまいました。本当にこの国はどうなってしまうのだろうと誰もが思っているはずです。

電車の中で誰に拾われるでもなく空き缶が右に左に転がっているのを見ました。前を走る車の窓からタバコやゴミのポイ捨てをする光景を目にします。駅前で見ると重い荷物を持ち階段を上るご老人の横を誰もが急ぎ早に通り過ぎていきます。現実に私が目にした光景です。今では多くの子供が持つ携帯電話、サイトや掲示板につながればとても子供には見せられないような情報が溢れています。当然運営しているのは大人が運営する企業です。様々な粉飾や原材料の不正、商品管理の不備、手抜き、書類の改ざん、番組のヤラセ、全ては一番の目的を営利にだけ繋げようとした結果であり、仕事とは？その意義とは？という目的を見失っていなければ、そんな方向には進みもしなかったはずです。

本来私たち日本人は長い歴史と伝統に引き継がれた古き良き精神性、己を律し利他を重んずる美しい心を生まれながらにして兼ね備え、良いものは良い、駄目な事は絶対駄目！法律や規則だけに捉われず、物事としての正しい筋道、人として守るべき正しい道、即ち義理、誰が見ていなくても自分の心だけは分かっている、天からはどこでも見えている

と考え、それが日本人としての揺るがない強い精神として宿っていたはずです。コンビニ前でゴミを散乱させ、たむろする若者。若者だけが悪い訳ではありません。家庭内教育は勿論の事、それを論さず見逃す＝許す社会、認める社会、そう大人が悪いのです。若者が悪い、教育が悪い、社会が悪いと言っていたところで何も変わりません。まず己を見直し変えるべき点があるならば即座に変え、行動を起こしていかなければなりません。己が変われば、それが良い事ならばそれは必ず人に伝播するはずで、家族が変わり隣人が変わり会社が変わる。それは地域が変わり国が変わり世界をも変えるという事です。すなわち己を変えられなければ国は変えられない。己を変えられれば国は変わる！という事なのです。

真の価値観

利己主義に走り利益重視などの考え方などから、人からそれらの問題に大きく起因している事は先にも述べました。皆今何の為に生きているのでしょうか。自分の為、家族の為、会社の為、従業員の為、生活の為。色々あるかと思います。長寿国となった日本とても良い事です。人の寿命は皆それぞれですが大体 50 年から約 100 年という人生を歩みます。しかし地球または宇宙というその長い歴史からみれば、それらはほんの一瞬の出来事にしか過ぎません。瞬きにも満たない瞬間的な時間です。私たちは現代のそんな一瞬に生きる時間を「何か」の為に生きています。生かされています。私たちは今に生きたその存在の証として、何らかの足跡を残したいと願いつつ生きているのかもしれない。大事な事は何かの為にその「何か」なのではないでしょうか。自分だけの為に、お金の為に、偉くなる為に、ではあまりにも寂しすぎます。当然、企業としての目的は「営利を求める事」です。それが悪い事ではありません。しかし何の為に、営利はなぜ、どうしていただけるものなのか、というところが大事な事です。家族の為に、愛する人の為に、仲間の為にと思うこと、当然です。しかし視野をもっと広げてみよう。時間をもっと大きく長く捉えてみよう。ほんの一瞬を必死に生き抜く私たちに出来る事は限られています。ならば今目の前にある事に一生懸命取組もう。少くも無理をして出来る事があるのなら行動を起こしてみよう。これはまずいのでは？問題だ！と感じたならば、それが大変な事であっても自らが率先して飛び込もう。どんなに気をつけようとも良かれ悪かれ人生には様々な事が起こります。一点の曇りも無い真っ直ぐ平坦な道を歩むよりも山あり谷あり多少波風たつくらいの道の方が楽しいものです。苦境を乗り越える為には大変は当たり前です。大変な事だから問題なのであり、それに挑むことも当然大変に決まっています。利益を得、良い生活を送る事は案外容易いかもかもしれません。しかし良い人生を創る事は難しい。全ては自分次第であり自分の歩み方で決まるのです。

JC から更なる活力を

青年会議所に所属する会員は、企業の経営者またはその担い手、団体等の何かしらの影響力をもつ管理職などについている人が大半を占めます。地域を構成する一員としては自ずと様々な責任を背負っており、JC はそんな会員一人ひとりが手間暇をかけて手弁当で行っています。そんな会員本人または会員企業は健全で明るく元気でなければ、それは私たちの青年会議所活動の威力も半減する事を意味します。JC には、出向をいただく、日本青年会議所、地区協議会、ブロック協議会、LOM の各事業に参加いただく、様々な機会、場があります。各事業への参加をいただく事は、私たち自らが謳う街づくり社会づくりの実践な訳ですから、その目的に向かうという意味にあっても当然な訳ですが、これら、また出向は多きを得る事が出来るはずです。その企業、団体等の執行部を多く勤める私たち青年会議所が、様々な知識・情報を習得し、また会員本人があらゆる面でスキルアップする事は、その企業を正當に元気付かせ地域を元気付かせ、すなわち国・世界へも風を送り込むという事になります。根底をしっかりとったうえ大局を見、バランス良い価値ある協議会運営を図っていきます。

さいごに

改めて確認します。

使命重き崇高なる JC

「こころ」「姿勢」「言葉」「表情」志高く誇り高く己を律し行動す

もしそこに「ゴミ」が落ちているのなら

落ちない仕組み捨てない仕組みを創りあげるのが JC

捨てないよう声あげるも JC

拾うも JC

心やさしく 未来を見つめ

夢あふれれば 胸膨らみ 目は輝く

輝きから事興し言葉発し人接すれば

本当の心は通じあう

己を律し強い信念から

確かな未来を創造していきましょう！